

3

Annual Report 2013

各部

看護部

薬剤部

放射線技術部

臨床検査技術部

臨床工学部

リハビリテーション部

栄養管理部

感染制御部

医療安全管理部

臨床研究管理部

事務部

医療事務課

医局秘書課

資材課

施設課

システム開発室

総務課・財務課

地域医療連携センター

健康管理部

【看護部】

看護部は2006年から7対1看護体制を取得し、働きやすい職場環境作り、ワークライフバランス・キャリアアップを視野に入れた看護部体制作りに取り組んでいます。また、看護師一人ひとりの力が質の高い看護提供に繋がると考え、教育体制の充実やモチベーションアップのための仕組みを作っています。個々の看護師の専門性を活かした自律した活動展開は、地域の患者さんに質の高い看護を提供する役割を担っています。他にも専門の講師を招き看護研究、看護に関する学習会を定期的開催し、専門職者としての知識技術習得に努めています。

2013年度看護部実績を中心に、「新人教育プログラム」「ラダー別教育プログラム」「法人内認定看護師活動」「看護外来の件数」などの詳細を項目別に報告します。

主な施設基準

7対1入院基本料
急性期看護補助体制加算(25対1)

職員配置及び有資格者

■看護職員数および配置

2014年3月31現在

		3階西 病棟	3階東 病棟	4階西 病棟	4階東 病棟	5階西 病棟	ICU	透析室	手術室	外来	糖尿病 センター	看護 事務室	合計
常勤	看護師	36	31	34	44	31	40	10	20	13	5	4	268
	准看護師	1	2	0	1	1	0	2	1	4	0	0	12
非常勤	看護師	1	6	4	5	6	0	7	3	11	5	2	50
	准看護師	3	6	5	3	3	1	4	1	4	0	1	31
合計		41	45	43	53	41	41	23	25	32	10	7	361
常勤	ヘルパー	1	1	1	2	1			1				7
	ヘルパー	1	3	4	1	3	2	1	2			1	18
非常勤	病棟 アシスタント	1	1	1	1	1	1		1			1	8
	診療 アシスタント				3					13	7		23

■常勤および新人看護師の離職率 過去5年間の離職率は以下に示す通りです。

	常勤看護師離職率(全国平均)	新人看護師離職率(全国平均)
2009年度	13%(11.9%)	18% (8.9%)
2010年度	12%(11.2%)	17% (8.6%)
2011年度	9%(11.2%)	17% (8.1%)
2012年度	10%(10.9%)	4% (7.5%)
2013年度	7%(未)	10%(未)

■認定看護師の紹介および役割

現在、緩和ケア、感染管理、がん化学療法看護、脳卒中リハビリテーション看護の4領域にて6名で活動中です。

2013年度は「救急看護」「集中ケア看護」の教育課程を2名が修了し、認定看護師となりました。



認定名	取得年	教育機関	更新年
緩和ケア	2005年8月	日本看護協会 神戸研修センター	2010年
感染管理	2007年7月	日本看護協会 神戸研修センター	2012年
緩和ケア	2009年7月	久留米大学医学部認定看護師教育センター	
がん化学療法看護	2010年6月	久留米大学医学部認定看護師教育センター	
がん化学療法看護	2010年6月	久留米大学医学部認定看護師教育センター	
脳卒中リハビリテーション看護	2011年7月	熊本保健科学大学	
救急看護	2014年7月	九州国際看護大学	
集中ケア看護	2014年7月	西南大学	

①緩和ケア認定看護師

緩和ケアは、病気とともに生きる患者さんが、つらくないように病気と付き合っていく方法を患者さん・ご家族とともに考え、心と身体、生活をサポートしていくケアです。がんなどの疾患に対し、病気そのものや治療に伴うさまざまな苦痛を和らげ、QOLを維持・向上することを目的とし、治療早期から最期の時まで主治医・担当看護師・緩和ケアチームとともに支援します。

②感染管理認定看護師

「白十字グループに関わる全ての人を感染から守ること」を使命とし、感染防止に取り組んでいます。定期的に流行する風疹や麻疹ですが、当院は以前より抗体獲得に取り組んでおり、感染を受けない、感染源にならないような体制を作っています。

③がん化学療法看護認定看護師

がん化学療法に特化した知識と技術をもとに、安全な投与管理、副作用症状のマネジメント、患者さんがセルフケアできるような支援を行うことが求められています。また、看護スタッフの指導・相談を行うとともに、自己の臨床実践能力を向上し、がん化学療法看護の発展に貢献していく役割があります。『がん化学療法を患者さん・ご家族が安心して安全に安楽に受けられるとともにがん化学療法に携わるすべてのスタッフが安全に安心して看護ができる』ことを目標に活動を行っています。

④脳卒中リハビリテーション看護認定看護師

現在、脳卒中は死因の第4位ですが日本人寝たきり疾患患者の第1位を占め、また高齢化とともにさらに患者数の増加が予想されます。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、発症直後・超急性期から脳卒中患者の病態予測を行い、重篤化を回避するためのモニタリングやケアを行い廃用症候群予防・家族を含めた退院支援・再発予防に努めていきます。

■学会認定看護師

専門学会認定看護師の資格取得を支援し資格取得後は、院内での看護実践、地域への講演活動などにおいて、看護の質向上に努めています。

看護管理者育成も日本看護協会の看護管理教育課程を毎年計画的に受講し、修了者が24名、看護質向上に向けて病棟などの看護管理を行っています。

2013年3月31現在

認定看護管理者教育課程修了	人数
ファーストレベル研修	19名
セカンドレベル研修	4名
サードレベル研修	1名

2013年3月31現在

認定名	人数
消化器内視鏡技師	7名
日本糖尿病療養指導士	12名
リウマチケア看護師	7名
一次救命処置認定看護師(BLS)	43名
一次救命処置認定看護師(ACLS)	28名
ISLSプロバイダー	26名
透析技術認定士	3名
呼吸療法認定士	3名
IVR看護師	2名
リンパ浮腫指導技能者	1名
弾性ストッキングコンダクター	3名
糖尿病重症化予防(フットケア)修了	4名

■法人内認定看護師

法人内にて、1~2年の教育期間を経て、認定看護師や学会認定看護師・診療部の講師による講義や活動の支援を受けながら資格を取得します。3年毎に更新し、2014年度からは「脳卒中リハビリテーション看護」を開始予定としています。

認定部門	認定	2013年度受講者	認定部門	認定	2013年度受講者
説明支援ナース	8名	1名	N S T	5名	1名
皮膚ケア	7名	1名	がん化学療法	4名	1名
緩和ケア	5名	1名	ケア技術指導者	1名	2名
感染管理	8名	0名		—	6名
			合計	38名	13名

■看護部の活動報告

■地域共同学習会および出前講座

認定看護師・法人内認定看護師・学会認定看護師が中心となり、地域医療機関を対象とした研修会を実施しています。出前講座に関しては、「糖尿病」「緩和ケア」を中心に、県北地区で開催しています。

開催日	タイトル	担当	参加数
2013年5月18日	できるか見直してみよう!!ベッドサイドの感染対策	感染管理認定看護師	61名
2013年7月6日	いろいろな食事姿勢をみんなで体験してみよう!!	白十字会・白寿会グループ法人内認定 ケア技術指導者	40名
2013年8月24日	褥瘡ケアを一緒に考えよう!	法人内認定皮膚ケアナース法人内認定 NSTナース	35名
2014年3月22日	エンゼルケア・エンゼルメイクあなたも達人になりませんか?	緩和ケア認定看護師法人内認定 緩和ケア看護師	30名

■看護外来実績

認定看護師・法人内認定看護師・学会認定看護師が中心となり、市民・患者・家族・地域医療機関のスタッフを対象に相談・指導などを行っています。2013年度の実績は以下のとおりです。

看護外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
皮膚ケア	38	31	26	37	29	14	26	33	44	31	25	25	359
下肢静脈	4	30	9	15	80	14	24	16	15	19	14	13	254
がん支援	50	47	48	68	79	77	78	69	35	70	79	44	774
女性の為の尿失禁	0	12	0	0	0	1	0	0	0	0	14	0	27
禁煙	1	0	1	0	1	4	3	0	5	0	1	4	20
脳卒中	7	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1	12
糖尿病	27	30	40	30	36	40	30	18	25	17	28	24	345

※5月の健康フェスタ、8月の市民公開講座(下肢静脈)の対応数も含む。

■ 新人看護師研修プログラム

19名の新人看護師に、人事本部からの研修を2日間、看護部の集合教育3日間を行い、その後は各部署へ配置されます。下記の年間教育プログラムに沿った研修と、各部署での看護技術指導があります。



2013年度 新人看護師 年間教育研修スケジュール

		集合研修				OJT活動		
		A:新人看護師研修	A:教育担当者	B:学研ナースング	人事本部・病院全体			
		新人研修責任者:合川課長		水曜日 16:00~17:30			実地指導者 教育担当者 部署課長	他部署技術交 流研修
4月	入職前研修 3日間 4/3-4-5日	就職前研修		4/26(金) 新館4階	感染予防の基礎(防護用具の使い方、無菌 操作、スタンダードプリコーション)	4/1(火) 新入職員研修(19名)		
5月	5/14(火) 15:00~17:30 5階第2講義室	検体の取り扱い輸血など	検査課・血液センター 1G(4西)担当	5/15(水) 第2講義室	医療安全の観点からみた与薬法(経口薬、注 射、点滴)で注意すべきこと			
	5/1(水) 16:00~17:30 5階第2講義室	ストレスケア	平田元看護部長 担当:横山部長、合川課長					
	6月看護部全体研修	看護必要度について	業務委員会2G(4東)担当					
6月	6/12(水) 15:00~17:30 5階第2講義室	与薬技術(麻薬・劇薬・毒薬など)	薬剤課3G(3西)担当				目標面接 ★評価確認	(例) OP室/救外 →ICU 3東棟 →ICU/HD
	6/24(月) 15:00~17:00 5階第1講義室	看護診断	記録委員会 小柳課長					
	6/28(金) 15:00 ~17:30 5階第1・2講義室	ケア技術研修	看護部・リハビリ 4G(3東)担当					★約束事項★ ①他部署の研 修希望
7月	7/1(月) 15:00~17:30 5階第1・2講義室	感染研修 第2弾	感染制御部奥田係長 院内認看護師合川課長	7/11(木) 会議室	医療安全の観点からみた医療器具、輸液ポ ンプ、シリンジポンプの取り扱い			②教育担当者 委員会で調整
	7/9(火) 15:30~17:30	NST:口腔ケア・経管栄養・褥瘡 について						③担当指導は 教育担当者(交 流の部署とち らがついても可)
	7/ ()日にち未定	医療ガス研修	施設課主催					
		個人面接 (スケジュール別紙)	横山部長				★評価確認	
	7/16(火) 17:00~17:30 リフレッシュルーム	新人看護師 茶話会(人事研修後)	合川課長			7/16(火)新人7カ所7ツア研修		④自部署の課 長・主任へあら かじめ報告を行 う
8月	8/1(木) 15:00~17:30 5階第2・3講義室	救命救急処置研修	中路医師、山下麻Ns、合川課長 5G(OP/救外・外来)担当	8/8(木) 会議室	看護記録一書くべきこと、書いてはいけない こと			⑤必ず委員会 で申請と調整 を行う
9月	9/9(月) 15:00~17:30 5階第1講義室	人工呼吸器について 基礎編	臨床工学部:前田課長6G (ICU/HD) 合川課長	9/4(水) 第1講義室	心電図成り立ちと基本波形の読み方、致死 的不整脈の対応法		★評価確認 フィードバック提出 9月1週目まで	⑥日程が決定し たらお互いの 課長へ勤務の 調整を申し出る
	9/27(金) 16:00~17:30 5階第1講義室	放射線研修	放射線技術部 7G(5西)担当					
10月				10/4(金) 第2講義室	注意が必要な患者の体位変換とポジショ ニング	10/12(土) 9:00~12:00 安全における報・連・相と報 告書の書き方	目標面接 評価確認	
11月				11/6(水) 会議室	経管栄養チューブ挿入と経管栄養の実施			
12月	12/7(土) 10:00~12:30	リフレッシュ研修予定: (ボーリング)	合川課長、丸田主任	12/4(水) 第1講義室	呼吸の基礎知識と酸素吸入療法			
				12/25(水) 会議室	排便に困難を伴う患者の排泄援助		★評価確認	
1月				1/16(木) 会議室	BLSの基礎知識とチームメンバーへの応援 要請			
2月				2/18(火) 第1講義室	口腔ケアの疑問解決	2/1(土) 9:00~12:00 安全管理:総合		
3月	H26 3/20(木) 12:30~(1時間) 第2講義室	新人ランチョン面談会	横山部長・野口次長・合川課長	3/18(火) 会議室	看護の魅力		★評価確認 フィードバック提出 3月1週目まで	

*2013年度は、院外の新人看護師も参加できるよう計画し、次に示す通りに研修を実施しました。

開催日	タイトル	担当	参加数	合計
2013年 8月 1日 8月29日	『救命救急処置』 ~私は何をする人~	救急部看護課長他	院内:10名 院外: 6名	16名
2013年11月15日 2014年 3月25日	『感染対策新人研修』 ~知っておきたい基本 ~	感染制御部 感染管理認定看護師	院内:12名 院外: 4名	16名

■ラダー別研修プログラム

「人材育成」「人材活用」「能力評価」を目的として、ラダー制を導入し、多くの研修を行っている。看護職務の内容と看護職に求められる能力を規定したキャリア開発の設計図であり、活用することで各自の役割認識を高め、患者さんに対して質の高い看護を提供できます。個人の申し出により、下記の臨床ラダーを用いて、個人のキャリア開発を推進しています。

2013年度 ラダー別研修プログラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ラダーⅡ		メンバーシップを発揮しよう 5/31	看護過程の展開 6/28			看護展開発表 9/27					フィッシュ論 2/28	実地指導者とは (教育担当者) 3/7
ラダーⅢ		フィッシュ論 5/10			魅力あるリーダーを目指そう 8/9			看護倫理 11/14				実地指導者とは (教育担当者) 3/10
選択研修				チーム運営とリーダーシップ 7/3			コミュニケーション 10/1					実地指導者とは (教育担当者) 3/14
ラダーⅣ			SWOT分析 6/25			キャリア開発の方向性 9/9			フィッシュ論 12/9			
ラダーⅤ	スタッフや学生へ適切な指導 4/30			ロジックツリー 7/22	SWOT分析 8/30					フィッシュ論 1/5		
ラダーⅥ	主任対象 4/3						フィッシュ 10/25	病院経営			目標管理 2/17 ↓	新人教育体制について 3/25 ↓
ラダーⅦ				フィッシュ論 7/30				11/22	キャリア開発支援について 12/18			
全体研修		在宅連携に関する全体研修 5/13・5/14・5/15 3日間のどこかで	看護必要度3回同じ研修 6/3・6/4・6/7	白十字会各施設の役割 7/12	メンタルヘルスケア	看護研究統計について 9/7		サービスについて考える		ナラティブ 1/31 自分の看護を語る		
ナーシングサポート	中堅コースは講義室でのLIVE放映を行います。別紙参照 基礎コースは新人のカリキュラムに組み込まれています。											
看護診断												
看護研究		5/1 企画書	6/14 個別指導			9/6 個別指導			12/13 論文指導	1/17 抄録指導		3/29 研究発表



学会・研修会への参加実績

研究に関しては、定期的に外部講師からの指導を受けています。日本看護学会の各領域の学会を中心に、下記に示す通り各部署より発表しています。また、専門学会にも多数発表しておりますので、P215を参照してください。

部	署	学 会 名	月 日
ICU/透析看護課		日本看護協会 成人看護I	10月24日・10月25日
3階東病棟		日本看護協会 看護総合	9月13日・9月14日
4階東/消化器内視鏡センター		日本看護協会 看護総合	9月13日・9月14日
4階西病棟		日本看護協会 看護総合	9月13日・9月14日
5階西病棟		日本看護協会 成人看護I	10月24日・10月25日
手術室/中材/救急外来		日本看護協会 成人看護I	10月24日・10月25日
外来看護課		日本看護協会 看護総合	9月13日・9月14日

重点目標・評価と来年度への展開

1) 「退院支援ナースの育成」と「退院支援カンファレンスの充実」

2013年度は、退院支援についての学習として、「在宅支援ナースの育成」プログラムを1年かけて学習し修了試験も合格した看護師が19名誕生しました。訪問看護・ケアプランセンターの実習を経て、在宅の現状も把握した看護師です。

退院支援チームの主任と他部門・多施設の職員が参加する「拡大カンファレンス」を立ち上げ、患者さんやご家族にとって「幸せな退院」になるように積極的な活動を行いました。

入院時より、担当看護師とMSWによるスクリーニングを実施し、入院3日以内の退院カンファレンスの開催を行い、早期の介入を行っています。その後は、定期的に退院カンファレンスを行っています。退院前には、「かかりつけ医」「在診医」「ケアマネージャー」の協力のもと、多職種との退院前カンファレンスを実施し、在宅希望の患者さん・ご家族の意向に沿えるような最善の在宅支援を検討しています。

また、転院となる際も、本人・ご家族の意向の確認と転院先との情報交換により、スムーズな退院支援を心がけました。

「在診医」の診療終了時間に合わせたの、当院での「退院前カンファレンス」の開催など、患者さん・ご家族が安心して自宅へ退院できること、在宅でも継続した医療・看護・介護が受け入れるためにカンファレンスを重要視しています。



2) 「食べられる口」をつくるための「口腔ケアの充実」

2013年度は、栄養管理委員会の「口腔ケア回診」を充実させました。歯科衛生士と法人内認定NSTナースが中心となり、各病棟へ口腔ケアの指導や、口腔内点検（歯周病や義歯の咬合）を行いました。栄養管理と同様に、早期の経口摂取を目指しています。



【薬剤部】

「調剤室」、「注射室」、「製剤室」、「医薬品情報室」、「医薬品倉庫」で構成され、救急および急性期医療に24時間対応し、医薬品の適正使用ならびに適正管理に努めています。患者さんにとって最適な薬物療法が実施されるよう薬剤管理指導業務、調剤業務等を通して、チーム医療の一員として業務に取り組んでいます。また、各種研修施設としても認定されており、専門・認定資格取得を目指しています。

主な施設基準

薬剤管理指導科
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理科1

取得認定資格

日本医療薬学会指導薬剤師 …………… 1名
 日本医療薬学会認定薬剤師 …………… 2名
 日本糖尿病療養指導士(CDE) …………… 2名
 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
 …………… 1名
 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 …… 4名
 日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 2名
 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 …………… 1名

職員配置

	常 勤 数	非 常 勤 数
総 数	9人	4人
薬 剤 師	9人	1人
薬剤助手	—	3人

活動状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
薬剤管理指導	実施人数	201	239	228	242	244	209	246	214	215	235	206	195	223
	実施件数	303	344	340	342	344	310	373	314	317	335	298	280	325
入院時持参薬	鑑別件数	339	407	340	39	327	322	369	361	358	415	338	381	333
抗癌剤 無菌調整 算定件数	外来(件)	68	67	59	75	79	77	76	71	74	85	78	79	77
	入院(件)	80	79	54	51	49	47	61	57	57	55	68	53	57
外来(院内)処方枚数		6,095	5,939	5,406	6,289	5,664	5,671	6,285	5,572	5,802	5,827	5,505	5,756	5,818
外来(院外)処方枚数		290	287	234	234	259	208	221	195	230	363	274	261	255
入院処方枚数		3,947	3,996	3,751	3,979	3,958	3,740	4,211	3,993	4,232	3,663	3,690	3,838	3,917

重点目標・評価と来年度への展開

若い薬剤師が増えてきており、2014年度は幅広い知識の習得に努め、基礎固めに力を入れます。また、専門分野にもより深く追究し、その知識を十分に活用した薬物療法の実践に取り組みます。より多くの患者さんに介入できるよう、さらに業務を拡大するためにも人材確保に努めます。

学会・研修会への参加実績

■学会発表

学 会 名	演 題	発 表 者
第23回日本医療薬学会年会	関節リウマチに対するアバタセプトの臨床効果	曾根本恵美
	腎機能を指標としたダビガトラン切替後のaPTTモニタリングの有用性	村上 優美
第46回九州リウマチ学会	佐世保中央病院におけるトシリズムブ使用症例の検討	曾根本恵美
第51回日本糖尿病学会九州地方会	糖尿病性腎症2期患者へのARB/ ACE阻害薬の使用状況調査	紙谷友里子

■論 文

題 名	掲 載 誌	著 者
薬剤師の病棟薬剤業務に対する医師・看護師の評価	日本病院薬剤師会雑誌 49(7) 747-751	村上 優美, 辻 泰弘, 溝口 晶子, 高原 規子, 小林 恵子, 曾根本恵美, 藤 秀人, 神村 英利
Population pharmacokinetic analysis of linezolid in low body weight patients with renal dysfunction	The Journal of Clinical Pharmacology 53(9) 967-973	Yasuhiro Tsuji, Eiji Yukawa, Yoichi Hiraki, Kana Matsumoto, <u>Akiko Mizoguchi</u> , Kunihiko Morita, Hidetoshi Kamimura, Yoshiharu Karube, Hideto To

【放射線技術部】

放射線技術部は、放射線関連検査および治療に携わっている診療放射線技師を中心とした部門です。診断価値の高い画像情報を提供できるよう、各種専門・認定資格を有する診療放射線技師が多数在籍しており、また、患者さんが安心して検査や治療を受けることができるように医療被ばくの低減にも努めています。

主な施設基準

CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
高エネルギー放射線治療

職員配置

	常勤専従	常勤専任・兼任		非常勤数
		人数	常勤換算	
総 数	14人	2人	1人	—
診療放射線技師	13人	2人	1人	—
事 務（受付）	1人	—	—	—

施設認定

マンモグラフィ検査施設画像認定
医療被ばく低減施設認定

取得認定資格

放射線取扱主任1種……………3名
放射線管理士……………3名
放射線機器管理士……………4名
医用画像情報精度管理士……………2名
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師……………3名
MR専門技術者……………1名
胃がん検診専門技師……………3名

活動状況

	2009年度件数	2010年度件数	2011年度件数	2012年度件数	2013年度件数
一 般 診 療	42,364	45,612	48,264	48,202	51,547
検 診	16,197	13,943	10,676	12,798	12,649
総 計	58,561	59,555	58,940	61,000	64,196

重点目標・評価と来年度への展開

「顧客満足の視点」において、患者満足度評価の結果9.5点以上が8項目と、目標を達成しました。世間の接遇に対する意識が高まっていく中、定期的に行っている接遇向上活動が実を結んだものと考えます。今後もより質の高い接遇を目指し、気を緩めることなく改善活動を続けていきます。

「財務の視点」においては、コスト削減および在庫数削減が前年度値を下回っており、定期的な在庫数確認やスタッフへの意識付けが効果的であったと思われます。

「病院機能の視点」では、放射線技術部に関する部分の電子カルテシステムならびにその操作法などを見直しました。定期的に検証することで、システムの不備や誤った使用方法および認識などが浮かび上がり、それを改善することで、より効率よく仕事ができるようになります。

「学習と成長の視点」では、専門知識の向上として、長崎県以上開催での研修会にて、4題の研究発表を行うことができました。今後は、研究発表促進チームを作り、新鮮でタイムリーなテーマを探り、技術向上に活かせる研究発表を積極的に行っていきたいと思えます。

学会発表実績

日付	学会名	演題	発表者
2013年11月	九州Gyroミーティング	3.0T装置を導入した理由 ～3.0T導入から1年経過して～	馬場 隆治
2013年11月	九州放射線医療技術学術大会	T1強調VISTAを用いた脳血管腔描出の 試み	馬場 隆治
2014年1月	九十九胃透視研究会	当院の胃検診撮影について	伊藤 淳一
2014年1月	長崎県放射線技師会 県北地区研修会	当院における核医学検査について	村井 秀樹
2014年3月	長崎CTMR研究会	脳MRIにおける CSFフローアーティファクトについて	山口 龍成
2014年3月	長崎県胃がん検診撮影技師 研修会	基準撮影法1・2でがんが見つかるか	高見 晋弘

【臨床検査技術部】

「中央分析室」「病理細胞診室」「微生物室」「生理超音波室」の4部署から構成されており、一日も早い患者さんの社会復帰を実現するために、職員一丸となって最新の検査技術・知識を駆使し業務に当たっています。当部門は臨床検査の国際規格であるISO15189「臨床検査室—品質と能力に関する特定要求事項」を、長崎県で第1番目(全国65番目)に取得した認定検査室です。当院、臨床検査技術部で測定・報告された検査データは、国際的にも通用するものです。



ISO 15189認定シンボル

主な施設基準

ISO15189認定施設
 精度保証施設認証 取得施設(JCCLS、日臨技)
 長臨技データ標準化委員会基幹病院

職員配置

	常勤	非常勤(常勤換算)	合計(常勤換算)
医師	1人	—	1人
臨床検査技師	23人	5人(4人)	28人(27人)
助手	1人	1人(0.5人)	2人(1.5人)

取得認定資格

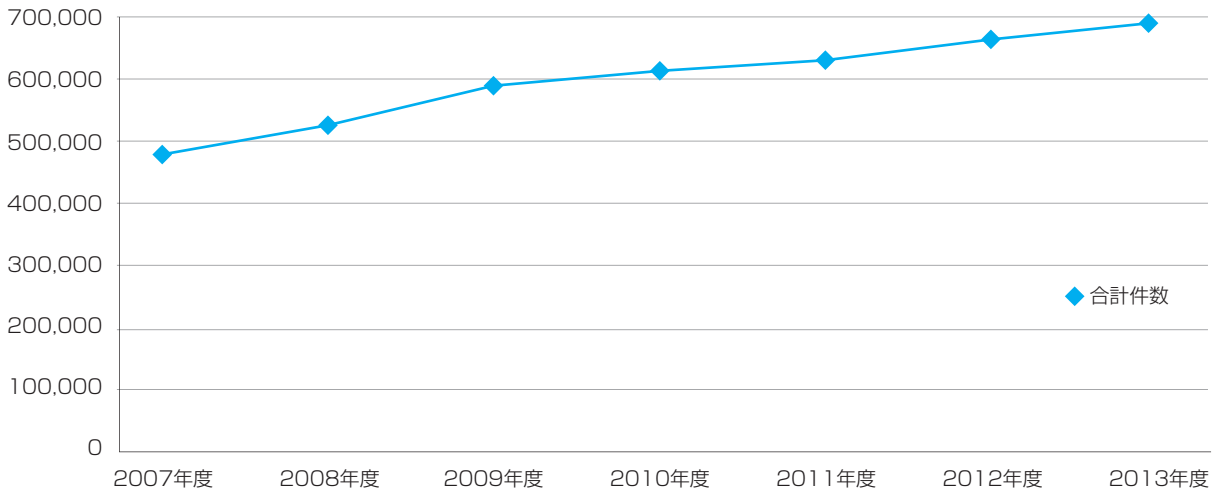
細胞検査士……………5名
 超音波検査士……………4名(実人数)
 (消化器4名、循環器2名、体表臓器1名、健診1名)
 認定輸血検査技士……………2名
 糖尿病療養指導士……………2名
 血管診療技師……………1名
 認定心電検査技師……………1名
 感染制御認定臨床微生物検査技師……………1名

活動状況

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
生化学・免疫	188,289	207,264	246,041	256,658	264,069	279,393	297,765
血液・一般・輸血	196,602	213,214	236,888	242,807	247,954	259,684	277,257
生理・超音波	34,990	34,056	36,953	34,911	33,639	35,901	37,618
微生物	11,513	9,647	10,652	11,603	12,259	11,988	13,994
病理・細胞診	6,729	6,615	7,128	6,886	6,534	6,871	6,662
外来採血	33,315	35,291	39,358	41,610	43,671	44,923	45,642
外注	11,730	15,226	14,376	16,220	15,050	15,337	16,835
合計件数	483,168	521,313	591,396	610,695	623,176	654,097	695,773

病理解剖	17	18	14	10	10	21	10
------	----	----	----	----	----	----	----

◆合計件数



重点目標・評価と来年度への展開

2013年度はISO15189の要求事項に適合する品質マネジメントシステムの構築・維持を重点目標として取り組みました。2013年1月23・24日に行われた初回サーベイランスにおいて認定継続が承認されました。2014年10月には第2回サーベイランスが実施される予定です。今後も認定維持を念頭に置き業務の品質管理に努めてまいります。また2014年1月には搬送・分注装置、生化学検査、免疫検査の測定装置を最新の機種に更新しました。更新により精度が高い検査結果を、より迅速に報告することが可能となります。

学会発表実績

学 会 名	演 題
平成25年度 長崎県臨床検査技師会定期総会	技師会活動～今後の展望～
第62回日本医学検査学会	超音波検査にて経験した豊胸術後の乳腺炎の一例
第54回日本臨床細胞学会総会(春季大会)	Gliosarcomaの1例
長崎県臨床検査技師会北地区総会	心臓原発悪性リンパ腫の1例
	血液型検査で異常反応を呈した1症例
第28回日本臨床細胞学会長崎県支部総会	心臓原発悪性リンパ腫の1例
栄研化学特別講演	臨床検査の現状と展望
長崎県臨床検査技師会新人技師育成宿泊研修会	臨床検査技師会(日臨技・長臨技)の事業・役割について
	知っておきたい生化学検査の注意点
平成25年度日臨技九州支部医学検査学会	生理検査室における医療安全管理～事例から学ぶこと～
ロッシュ品質マネジメントセミナー	ISO15189の取得の意義とその活用
第52回日本臨床細胞学会 秋期大会	ISO15189における病理業務の教育・研修について
日本糖尿病学会九州地方会	POCT機器の導入の検討
シーメンス ラボラトリー マネジメント セミナー	臨床検査技術部の人材育成システムについて
第25回日本臨床微生物学会総会	莢膜血清型11Aによるムコイド型肺炎球菌性髄膜炎の一症例
平成25年度 長崎県臨床検査技師会学会	当院の検査相談、検査説明への取り組み
	ISO15189における教育・研修管理委員会の役割

【臨床工学部】

臨床工学技士は医師の指示のもと、循環・呼吸・代謝機能を代替、補助する生命維持管理装置の操作、保守点検を担当する技術者のことで、ME(Medical Engineer)や、CE(Clinical Engineer)と呼称されています。

近年の高度先進医療の目覚ましい発展とともに医療機器も複雑化、多様化しており、我々、臨床工学技士が医療機器の購入から運用、廃棄まで一貫して管理を行い、患者さんはもちろん、現場スタッフにも安心して使用して頂ける医療機器の提供と共に臨床技術の提供、現場スタッフへの教育などを行っております。2009年4月より臨床工学部と部門名を変更し、現在男性8名、女性4名の計12名の臨床工学技士が在籍しており、血液浄化業務、手術室業務、医療機器管理業務、不整脈治療業務、温熱療法業務、睡眠時無呼吸外来業務、医療ガス設備管理業務などを365日24時間体制で行っております。2013年9月より県内では初めて2次当番日の当直業務を開始しております。

主な施設基準

- 医療機器安全管理料1
- 透析液水質確保加算2
- MRI対応植込み型デバイス装着患者のMRI検査
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(電池交換を含む)
- 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術
- 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈血栓切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術
- 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法

職員配置

スタッフ構成	臨床工学技士	12名(常勤)
認定資格	体外循環技術認定士	1名
	呼吸療法認定士	1名
	特定化学物質等作業主任	2名
メンテナンス認定	人工呼吸器 Servo i/S プリベントイプメンテナンス講習会	4名
	人工呼吸器ピューリタンベネット700シリーズミドルコース	3名
	人工呼吸器ピューリタンベネット700シリーズアドバンスコース	6名
	低圧持続吸引器MS-008メンテナンス講習会	2名
	輸液ポンプTE-131メンテナンス講習会	5名
	輸液ポンプTE-161Sメンテナンス講習会	3名
	シリンジポンプTE-331S/322Sメンテナンス講習会	6名
	シリンジポンプSP-115メンテナンス講習会	1名
	日機装透析液供給装置メンテナンス講習会	11名
	日機装患者監視装置メンテナンス講習会	11名

2013年度ME機器管理台数

機 器 名	管理台数
シリンジポンプ	86
輸液ポンプ	103
医薬品注入コントローラ(ドリップアイ)	10
パルスオキシメータ	5
生体情報監視モニタ	17
データ送信機	113
人工呼吸器	9
非侵襲型呼吸器(NPPV)	5
低圧持続吸引器	15
透析液供給装置	2
A剤溶解装置	1
B剤溶解装置	1
RO装置	1
透析患者監視装置	45
I A B P	2
P C P S	3
人工心肺装置	1
エンサイト	1
レーザー照射装置	1
サーモロンRF-8	1
神経刺激装置	1

M E 機 器 貸 出 件 数	
シリンジポンプ	3,296
輸液ポンプ	3,667
医薬品注入コントローラ(ドリップアイ)	389
経腸栄養剤投与輸液ポンプ(カンガルーポンプ)	22
携帯型輸液ポンプ(PCAポンプ)	5
SPO2モニタ	146
モニタ	65
人工呼吸器(760)	86
非侵襲型呼吸器(NPPV)	147
二相式気陽圧ユニット(オートセットCS)	6
エアロネブ	23
低圧持続吸引機(メラサキューム)	226
超音波装置	392
その他	4
合計	8,474

透 析 機 器 使 用 件 数	
透 析 供 給 装 置	626
A 剤 自 動 溶 解 装 置	313
B 剤 自 動 溶 解 装 置	445
R O 装 置	313
患 者 監 視 装 置	13,437
合 計	15,134

ア フ ェ レ ー シ ス 関 連		
C H D F	症例数	20
	治療件数	96
エ ン ド ト キ シ ン 吸 着 療 法	症例数	15
	治療件数	22
単 純 血 漿 交 換	症例数	2
	治療件数	8
免 疫 吸 着 療 法	症例数	1
	治療件数	2
L D L 吸 着 療 法	症例数	3
	治療件数	9
L - C A P	症例数	7
	治療件数	63
腹 水 濃 縮	症例数	7
	治療件数	19
合 計	症例数	55
	治療件数	219

温 熱 治 療	合 計
導 入 数	25
治 療 件 数	303

M E 機 器	合 計	
メ ン テ ナ ン ス ・ 修 理 件 数	自 部 署	477
	業 者	180
	合 計	657

補 助 循 環 装 置	
P C P S	7
I A B P	44
合 計	51

自 己 血 回 収 装 置	合 計
	64

E C C	合 計
C A B G	21
A V R	7
A V R + M V P	1
M V P	5
M V P + M a z e	1
A V R + C A B G	1
上 行 置 換	5
弓 部 置 換	1
合 計	42

O P C A B	合 計
	9

レ ー ザ ー 焼 灼 術	合 計
	118

カ テ ー テ ル ア プ レ ー シ ョ ン	合 計
	13

神 経 刺 激 装 置			
S	E	P	7
M	E	P	7
E E G (8 c h)			5
A	B	R	2
合 計			21

重点目標・評価と来年度への展開

■当直業務

2013年9月より2次当番日の当直業務を開始していますが、日常業務の延長、夜間院内ラウンドなどの業務拡大を目指します。

■在宅・緩和医療への参入

今後、在宅において医療機器が頻繁に使用されることが予測されます。院内での使用から在宅での使用へスムーズな移行ができるよう、訪問看護ステーション、緩和医療地域連携医とのチーム医療へ参入していかなければならないと考えています。

■増改築への参入

2014年度より始まる増改築および病床再編に向け、効率的な医療機器の配置と運用を行います。また、過去の事例や、過不足を解消し、なおかつ利便性の高い機器の提案を積極的に行っていきます。

研修会への参加

学 会 名
第23回日本臨床工学技士会
第8回九州臨床工学技士会
第39回日本体外循環技術医学会大会
第39回九州体外循環技術医学会大会
第62回九州消化器内視鏡技師研究会アブレーション研修会
第58回全国透析医学会学術集会
第46回九州人工透析研究会
第26回九州・山口地区ハイパーアーミア研究会
第6回長崎県臨床工学技士会大会
長崎県臨床工学技士会セミナー「穿刺技術の基礎」
第2回長崎県臨床工学技士会循環関連セミナー
第回日本体外循環技術医学会教育セミナー
第18回長崎消化器内視鏡技師会
第19回長崎県呼吸ケア研究会
第8回九州臨床工学技士会
電気手術器(VIO300D)から発生する高周波音測定について
下肢静脈瘤血管内治療における臨床工学技士の役割
第6回長崎県臨床工学技士会大会
消化器内視鏡センターにおける臨床工学技士業務について
内視鏡室における臨床工学技士の活動報告
第18回長崎消化器内視鏡技師会
消化器内視鏡センターにおける臨床工学技士の役割
第19回長崎県呼吸ケア研究会
当院における呼吸療法に対する臨床工学技士の関わり

【リハビリテーション部】

長崎県下の急性期病院の中でも最も多いスタッフ数を誇り、安全で効果的なリハビリテーションを365日体制で提供しています。

対象患者も術後早期から緩和医療の患者まで幅広く、「いつでも、どこでも、誰にでも」をモットーに必要なのある患者に十分な量のリハビリテーションを実施しています。

主な施設基準

- 脳血管疾患等リハビリテーション料I
- 運動器リハビリテーション料I
- 呼吸器リハビリテーション料 I
- 心大血管疾患リハビリテーション料 I
- がん患者リハビリテーション料

職員配置

	常勤
理学療法士	23.5人
作業療法士	15人
言語聴覚士	7人

取得認定資格

- 福祉住環境コーディネーター2級……………17名
- 福祉用具プランナー……………9名
- 認知神経リハ ベーシックコース修了……………3名
- 認知神経リハ アドバンスコース修了……………1名
- 介護支援専門員……………2名
- 認定理学療法士(循環)……………1名
- 認定理学療法士(呼吸)……………1名
- 認定理学療法士(脳卒中)……………1名
- 認定言語聴覚士(摂食嚥下領域)……………1名
- 心臓リハビリテーション指導士……………3名
- 呼吸療法認定士……………5名
- AKA博田法認定指導者助手……………1名
- AKA博田法認定療法士……………1名
- ボバース講習会イントロダクトリーモジュール修了…1名
- ボバース講習会ヒューマンムーブメント修了……………1名
- コアコンディショニングBASICインストラクター……………3名
- メンタルヘルスマネジメントⅡ種……………5名
- メンタルヘルスマネジメントⅢ種……………1名
- キネシオテーピングCKTT会員……………2名
- 学習療法1級……………1名
- 学習療法2級……………1名
- 摂食嚥下コーディネーター……………2名

活動状況

部門別実施件数

単位：件

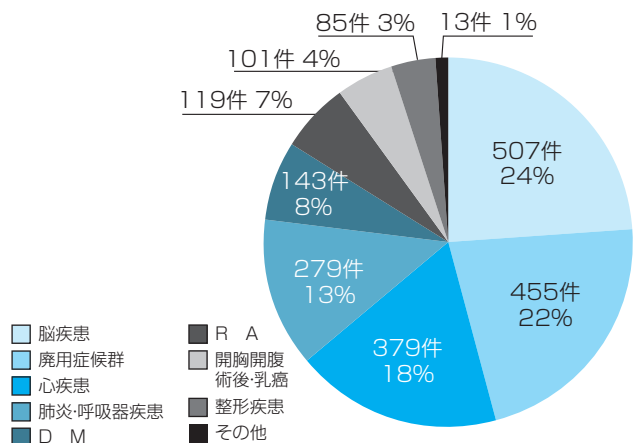
		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
理学療法	入院	27,382	30,576	31,149	30,556	32,749
	外来	1,166	1,209	1,323	1,077	950
作業療法	入院	21,039	23,333	24,470	25,281	24,792
	外来	301	238	259	533	352
言語聴覚療法	入院	9,087	9,593	9,844	8,484	10,696
	外来	71	66	136	328	222

疾患別内訳

単位：件

	入院	外来
脳疾患	507	21
廃用症候群	455	9
心疾患	379	3
肺炎・呼吸器疾患	279	2
D M	143	1
R A	119	4
開胸開腹術後・乳癌	101	2
整形疾患	85	30
その他	13	3
合計	2,081	75

疾患別内訳(入院)



重点目標・評価と来年度への展開

2013年度は早期離床プロジェクトと銘打って、これまで以上に積極的に離床を促進する予定です。具体的には摂食嚥下への早期介入、患者さん一人当たりの訓練時間の延長を図り、ADL改善および効率の指標となるFIM gain、FIM efficiencyの向上を目指します。

学会発表実績

【全国】

学 会 名	演 題	発 表 者
第15回日本医療マネジメント学会学術総会(岩手)	「白十字会リハビリテーション部におけるキャリアデザインシートを活用した人材育成の試み」	小川 弘孝
日本リハビリテーションケア 合同研究大会学会(千葉)	「多職種連携により自宅退院が実現できた間質性肺炎末期患者の一症例」	川上 章子
	「重症例の在宅復帰への取り組み～高齢家族への介助指導を中心に～」	野田 舞
第48回日本理学療法士協会 全国学術研修大会(愛知)	「油圧制動付き短下肢装具を使用し歩容の改善を認めた脳卒中片麻痺患者の一症例」	吉田 裕志

【九州】

学 会 名	演 題	発 表 者
日本医療マネジメント学会 第12回九州山口連合大会(山口)	「糖尿病患者に対する退院後も継続できる運動の新たな試み～ステップリハビリでいつでもどこでも運動を～」	久木野有沙
糖尿病学会九州地方会(沖縄)	「当院の糖尿病患者におけるステップリハの効果について」	川上 章子
	「佐世保中央病院リハビリテーション部における糖尿病患者への関わり」	田上 陽介
第21回長崎県作業療法学会	「呼吸補助筋の評価を元に患者教育を行い家事動作が獲得できた事例」	阿比留 宏
	「通所介護事業所の巡回において他職種協働によりADLが改善した一症例」	嶋田 史子
	「病棟との協働によりADL拡大が図れた症例～応用行動分析を用いて～」	田中 恒勢
長崎県理学療法学会	「急性期脳梗塞発症後にロボットスーツHALを使用した歩行訓練にて経時的効果が見られた一症例」	田中亜憂美
	「HALを使用し正中位での起立獲得を図った一症例」	鉄川 恭子
医療マネジメント学会 第14回長崎支部学術集会	「佐世保中央病院におけるがん患者リハビリテーションの取り組みと今後の課題」	木村沙那恵
第45回県北循環器懇話会	「佐世保中央病院における心臓リハビリテーションの取り組み」	田中 亮輔
長崎県心臓リハビリテーション研究会	「開心術後のうつ傾向と心臓リハビリテーションの関係を検討して」	田上 陽介

講演・学術活動

学 会 名	演 題	講 師
臼杵医師会立コスモス病院リハ部研修会(大分県)	「職員満足度向上に向けたワークライフバランスとメンタルヘルスマネジメントの考え方」	小川 弘孝
長崎県中央循環器地域連携パス研究会	「意外と簡単!心臓リハビリテーション指導のコツ」	小川 弘孝
竹田総合病院研修(福島県)	「クリニカルクラークシップ実習のススメ」	小川 弘孝
三士会合同 訪問リハビリテーション スタッフ養成講座2013 in長崎	シンポジウム「急性期・回復期・生活期リハスタッフの縦の連携について～それぞれの役割と求めること～」	石丸のぞ美
第15回地域共同学習会	「摂食嚥下障害について」	山口めぐみ
第27回 糖尿病診療を考える会	「当院における2型糖尿病患者に対するステップリハビリについて」	川上 章子
石坂脳神経外科院内研修会	「MMSEにおける認知症の早期発見」	嶋田 史子
佐世保市若年性認知症受け入れ事業所 情報交換会		嶋田 史子
認知症型ドリームケア研修会		嶋田 史子
県北ST勉強会	「聴診と排痰方法と呼吸介助」	田代 伸吾

【栄養管理部】

主な業務は「個別・集団栄養指導」、「栄養管理」、「給食管理」です。

栄養指導では糖尿病センターでの栄養看護外来を中心に、外来、入院患者さんに対して病態別に行っています。また集団栄養指導として、毎週月曜日から金曜日まで（祝日除く）、昼食をはさんで糖尿病教室を行っています。

栄養管理では、入院時のスクリーニングから定期的な栄養評価を通して、食事内容、形態の検討などNST活動を行っています。

給食管理については給食委託会社と協力し、行事食をはじめバイキングやコース料理（和・洋・中）などのイベント食を行っています。

主な施設基準

入院時食事療養費（I）

職員配置

	常勤
管 理 栄 養 士	8人

取得認定資格

管理栄養士……………8名
 日本糖尿病療養指導士（CDE）……………3名
 病態栄養学会認定病態栄養専門師……………1名
 食生活アドバイザー……………1名
 調理師……………1名

活動状況

■ 栄養指導、療養支援・相談、栄養介入件数

入院個別栄養指導	873件/年	
外来個別栄養指導	381件/年	
集団指導（糖尿病教室）	加算件数	159件/年
	参加延数	1,519人/年
糖尿病透析予防指導	50件/年	
栄養看護外来（療養支援・相談）	4,298件/年	
栄養介入件数	447件/年	

■ イベント食開催および参加患者数

開催数：9回
 参加数：182名

■ 給食内訳

一 般 食	96,218食	44.20%
特 別 食	106,289食	48.90%
経 管 栄 養	15,011食	6.90%

評価と来年度への展開

2013年度は栄養管理の充実を大きな目標とし、新たに3名の管理栄養士が入職、8名体制でスタートしました。

管理栄養士も入院時の栄養スクリーニングを行い、低栄養リスクの有無、食形態および内容の確認を行うことで、早期の栄養介入が行えるよう取り組んできました。その結果、介入件数は447件と、目標の280件を上回りました。今後はこの栄養介入の効果について検証していきたいと思っています。

また、今年度は2名がNST臨床実地修練（長崎大学病院）を修了し、今後も計画的に実地修練への参加を行って行く予定です。

栄養指導においては、入院中から退院後まで連続した支援を行えるよう、チーム医療の中での取り組みを継続させていきたいと考えています。

学会・研修会への参加実績

学 会 名	演 題 名	演 者
日本糖尿病学会 年次学術集会	低GI米とうるち米摂取後の血糖値とインスリン値の比較	貴島左知子
日本糖尿病学会 九州地方会	オールフリー(ビールテイスト飲料)摂取後の血糖値の変動	貴島左知子
	糖尿病患者の飲酒の実態調査	山下祐里子
	入院患者食事は外食の負担を軽減させる事ができるのか	山田 陽子
日本病態栄養学会	病院食による入院患者の血圧の変化と推定食塩摂取量との関連	貴島左知子

セミナーなど	演 題 名	演 者
病態栄養学会教育セミナー	糖尿病透析予防指導の実際(腎症2期・3期)	貴島左知子
県北NST研究会	食事と経管栄養の併用で改善した1症例	山田 陽子
糖尿病栄養療法研究会	「食行動質問表」からみた糖尿病教育入院の効果	貴島左知子
市民公開講座	痛風・高尿酸血症 ～食生活を改善しましょう～	貴島左知子
県北循環器連携バス学術講演会	高血圧 ～栄養指導の実際～	貴島左知子
九州DM検査セミナー	佐世保中央病院 糖尿病透析予防指導の実際	貴島左知子
糖尿病診療を考える会	食品交換表 第7版 ～改定のポイント～	貴島左知子
	当院の糖尿病栄養指導の実際	山田 陽子

【感染制御部】

病院は「病原菌を持った人」と「病気になるって免疫が落ちている人」が集中する特殊な環境のため、何も対策がとられなければ感染は起こって当然という環境にあります。感染制御部はこうした危険性を予測し、「病院に関わるすべての人を医療関連感染から守る」ことをモットーに、調査監視を行い、最新の感染防止技術の導入と徹底、感染防止教育などを行っています。

2007年6月1日に感染制御部が新たな部門として設立されました。2011年11月に室長が退職され、CNIC(Certified Nurse Infection Control:感染管理認定看護師)の専従の一人体制でしたが2012年9月より事務員が兼任で配置されるようになりました。多数のICD(Infection Control Doctor:感染制御医)や薬剤師、臨床検査技師、法人内認定感染管理ナース、感染対策委員会メンバーと連携をとって、感染対策を推進しています。

主な施設基準

感染管理加算1
地域連携加算

取得認定資格

- ・感染管理認定看護師
- ・第二種滅菌技師
- ・口腔ケア認定4級
- ・整理収納アドバイザー2級

職員配置

	常勤
専従看護師	1人
事務および兼任スタッフ	4人

活動状況

■ 研修会の開催(一部紹介)

実施月	対象	研修内容	講師	参加人数
4月	新入職員全員	院内感染対策について	奥田 聖子	約80名
	新任医師	新任医師オリエンテーション	奥田 聖子	8名
	看護部新人	院内感染防止対策についてパート1	奥田 聖子	19名
5月	看護補助者	感染対策について	奥田 聖子	7名
	新任医師	新任医師オリエンテーション	奥田 聖子	1名
6月	地域共同学習会	ベッドサイドの感染対策	奥田 聖子	61名
	全職員	合同研修会	木下 昇	282名 398名
7月	看護部新人	院内感染防止対策についてパート2	奥田 聖子	19名
	看護部中途採用者	看護部中途採用者感染対策研修会	奥田 聖子	11名
8月	子供探検隊参加者	病院こども探検隊—手洗い博士になるうー	奥田 聖子	30名
9月	看護補助者	感染対策研修会	奥田 聖子	25名
10月	コメディカル中途採用者	コメディカル中途採用者感染対策研修会	奥田 聖子	5名
	介護老人保健施設職員	老人保健施設で知っておきたい感染対策	奥田 聖子	150名
	長寿苑	インフルエンザ・ノロウイルス対策	奥田 聖子	約50名
	看護部中途採用者	看護部中途採用者感染対策研修会	奥田 聖子	14名
12月	全職員	合同研修会	田中 章貴	241名 439名
2月	地域看護師	看護協会感染対策研修会組織で取り組む感染管理2	奥田 聖子	37名
3月	訪問看護ステーションスタッフ	標準予防策	奥田 聖子	12名

■2013年度ベストプラクティスの作成

- ①おむつ交換
- ②在宅での吸引
- ③流水と石鹸での手洗い

■感染管理地域連携相互チェック4回**■感染管理加算を取得している
保険医療機関とのカンファレンス4回****■ワクチン接種の推進**

(HBV・入職時の流行性4疾患の抗体価の確認・
佐世保地区リハビリテーション部流行性4疾患ワクチン接種)

■インフルエンザワクチン接種率97%**学会参加発表実績**

日付	学会名
2013年4月13日	感染管理ベストプラクティスセミナー【大阪】 参加及び座長
2013年5月24日	ICNJ学術総会参加【大阪】
2013年6月22日・23日	口腔ケア学会参加【福岡】
2013年7月6日	県北滅菌研究会参加
2013年9月21日	神戸滋賀認定看護師研修会参加【大阪】
2013年9月28日	長崎県北県南滅菌研修会参加
2013年10月26日	ICNJ九州沖縄支部地方会参加【熊本】
2013年12月13日	医療機能評価機構感染管理セミナー 参加【東京】
2014年2月14日・15日	日本環境感染学会【東京】演題発表
2014年3月15日	神戸滋賀感染管理認定看護師研修会 参加【大阪】

重点目標・評価と来年度への展開

2014年度も研修会を充実させ15回以上の研修会の実施を予定しています。

HBワクチンの接種の推進、及び、インフルエンザワクチンの接種率90%以上など感染が起りにくい環境の維持に努めます。

【医療安全管理部】

医療安全管理部は、専従医療安全管理者を配置し、院長直轄の独立した部門として組織内に位置します。院内で発生した事例に関して、基本的には当該部署が初期対応し、その内容によっては、医療安全管理部が検証・共有・支援を行います。

主な施設基準

医療安全対策加算1

取得認定資格

医療安全管理者……………1名

職員配置

医療安全管理部	常勤専従	常勤専任・兼任		非常勤数
		人数	常勤換算	
総数	2人	1人	0.5人	
診療放射線技師		1人	0.5人	
看護師 (専従医療安全管理者)	1人			
事務員	1人			

活動状況

- ①医療安全教育・研修:「公開研修」および「新入職員・中途採用者対象安全研修基礎I～III」開催
- ②安全教育教材の作成:共有事例に関するe-learning教材の作成
- ③合同研修会の開催:第9回開催(6月18日)、第10回開催(11月19日)
- ④白十字会グループ安全管理協議会の企画・運営・実施

重点目標・評価と来年度への展開

- ・患者さん(ご家族)への安全安心情報伝達
- ・事例発生によるリスクコストの現状把握
- ・職員教育の充実
- ・職員の安全に対する意識向上への取り組み
- ・院内ラウンドによる現状把握

学会発表実績

学 会 名	発 表 演 題
日本医療マネジメント学会主催 第15回 医療マネジメント学会学術総会	効果的な教育のためのe-learning作成について
日本医療マネジメント学会長崎支部学会学術総会	これからの医療安全を考える ～地域連携を含めて、医療安全管理者の立場から～
医療の質・安全学会主催 第8回 医療の質・安全学会学術集会	効果的な教育のためのe-learning作成について(第2報)
日本手術学会長崎県北地区長崎分会セミナー	皆の知恵をもらいませんか(教育講演)
宮崎県輸血懇話会	基調講演

講演(講義)活動

会 場	演 題
九州文化学園高等学校衛生看護科専攻科	(講師) 医療安全
九州文化学園高等学校衛生看護科	(講師) 医療安全
医師会看護学校・卒後安全研修	(講師) 医療安全研修
医師会看護学校・実習前安全研修	(講師) 医療安全研修
長崎大学シーボルト校	(講師) 看護管理・安全
光風(対馬)	(講師) 危険予知訓練
愛野記念病院(諫早市)	(講演) 「組織の中の医療安全」
上五島病院(長崎市)	(講師) 危険予知訓練
平成24年度日臨技全国研修会医療安全管理者研修会	(講演) 医療安全管理者としての臨床検査技師の役割
長崎県看護協会	(講義) リスクマネージャ研修 危険予知
正規雇用労働者育成支援奨励金を活用した研修(総合メディカル) (大分・埼玉・鹿児島・福岡・宮崎・大阪・徳島・群馬)	(講義) 医療安全と教育
総合メディカル会員セミナー(静岡市・徳島市)	(講演) 多職種で取り組む医療安全
総合メディカル会員セミナー(名古屋市)	(講義) 医療安全と教育

【臨床研究管理部】(治験管理室)

治験および臨床研究に係る業務を管理・支援し、治験および臨床研究の適正かつ円滑な実施を図ること目的に2011年4月1日に新設されました。

治験管理室における治験事務局業務(治験審査委員会事務局を兼ねる)および治験コーディネーター(CRC)業務に基づいて治験を管理・支援する機能のほかに、臨床研究を管理・支援する機能を有し、治験による先端医療の提供・次世代の新薬開発への協力および臨床研究への関わりを通じて、社会医療法人として社会的責任の一部を果すため日々活動しています。

職員配置

	職 種	常 勤	非常勤	派 遣
臨床研究管理部	薬剤師	1人		
	助 手 ^(※1)		2人	
治験管理室	C R C ^(※2)			6人

(※1)リウマチ膠原病領域と糖尿病領域の研究のデータ・マネジメントを担当

(※2)CRCは、SMO(治験実施施設支援機関)との契約に基づく派遣。(治験事務局業務担当を含む。)

取得認定資格

JASMO公認CRC^(※3).....5名

(※3)JASMO公認CRCは、日本SMO協会が優れた資質向上を目的として、認定試験に合格したCRCを臨床試験のスペシャリストとして公認するものです。

活動状況

① 治 験	疾患領域	契 約 試 験 数		計	契 約 症 例 数		計	実 施 症 例 数		計
		継続	新規		継続	新規		継続	新規	
① 治 験	リウマチ膠原病 ^(※4)	継続	22	計31	継続	160	計203	継続	124	計151
		新規	9		新規	43		新規	27	
	糖尿病	継続	3	計3	継続	17	計17	継続	14	計14
		新規	0		新規	0		新規	0	
		合 計		34	合 計		220	合 計		165
② 新規治験スタートアップ会議の開催件数					計6回(RA:5回、SLE:1回)					
③ RADM臨床研究のデータマネジメントに関する実績					10研究分 (1,152症例)					
④ 医薬品製造販売後調査(PMS)などの新規契約件数					年間20件					
⑤ 治験審査委員会・倫理委員会の活動状況					各委員会の項を参照					
⑥ 臨床研究管理部通信(院内報)の発行実績					年間12号(毎月1回)発行					

(※4)今期において開発中止となった6試験(契約55症例)を含む。

■ 臨床研究管理部の業務

1. 治験の管理および支援に係る業務
2. 臨床研究の管理および支援に係る業務
3. 医薬品製造販売後調査 (PMS) の管理および支援に係る業務
4. 治験審査委員会の運営に係る業務
5. 倫理委員会の運営に係る業務
6. 臨床研究の各種指針の教育・啓蒙に係る業務
7. その他の業務

■ 治験実施医療機関の要件 (GCP省令より)

- ※当院は、この要件を満たしています。
- ・十分な臨床観察・試験検査を行う設備・人員を有していること
 - ・緊急時に被験者に対して必要な措置を講ずることができること
 - ・治験審査委員会が設置されていること
 - ・治験を担当する医師、薬剤師、看護師、CRCなどの必要な職員が十分に確保されていること

重点目標・評価と来年度への展開

■ 重点目標・評価

今期の治験 (継続+新規) 契約試験20件と契約症例200例を維持することとし、RA領域における全国レベルの複数の多施設共同長期臨床研究に参画しました。以上の目標は概ね問題なく達成しました。一方、部門内スタッフで研鑽し、統計解析ソフトGraphPad Prismの基本操作をマスターこととしていましたが、スタッフの入替りに伴い業務分担の再考が急務となったために研鑽に向けた環境の整備に留る結果となりました

■ 来年度への展開

来期治験 (継続+新規) 契約試験20件と契約症例200例を維持すると共に、引続きRA領域における多施設共同長期臨床研究に参画し、RAの最新治療の安全性・有効性に関するアウトカム研究に貢献します。

また、部門内スタッフで研鑽し、統計解析ソフトGraphPad Prismの基本操作をマスターします。

学会・研修会への参加実績

■ 学会発表の実績

日 付	学 会 名	演 題
2014年3月15・16日	日本リウマチ学会九州地方会in長崎	「Bio投与中のRA患者への質問紙による満足度調査」

■ 学会・研修会への参加実績

日 付	研 修 会 名
2013年9月15・16日	CRCと臨床試験のあり方を考える会議2013in舞浜
2013年11月16日	JASMO第24回継続研修in福岡
2014年3月15・16日	日本リウマチ学会九州地方会in長崎

【事務部】

◎医療事務課

「病院の顔」として、最初(受付)と最後(会計)に患者さんと接し、病院の印象を左右する部署であり、常に「笑顔と真心」を忘れずに患者さんと接するように心がけています。また、診療費請求についても、迅速かつ正確な請求ができるように、日々、努めています。

2013年度目標は、『サービス向上』であり、患者さんの視点に合わせた対応を行うことはもちろん、職員間においても相手視線の対応を行い、スムーズな診療の一端を担うことを目標としています。

◎診療情報管理課

さまざまな情報を一元管理し、業務の効率化を図り、診療情報を安全に管理することを重視し、医療の質の向上を図るとともに診療情報の点検ならび有効活用、提供などに努めています。

職員配置

	常勤	非常勤
医療事務課	36人	9人
診療情報管理課	3人	

取得認定資格

ホスピタルコンシェルジュ(3級)……………16名
 診療情報管理士……………8名
 医療秘書技能検定(2級)……………6名
 医療秘書技能検定(3級)……………6名
 診療報酬請求事務能力認定試験……………4名
 医療対話推進者……………1名

医療事務課業務内容

外来 医事 係	受付	患者さんの状況を確認しながら、迅速かつ的確な受付を行っています。
	コールセンター	「声で笑顔を伝える」をモットーに、診療科と連携を取り予約受付を行っています。
	オペレーター	外来患者さんの診療費計算を迅速かつ正確に行っています。
	会計	窓口での支払いや医療費相談の対応、日々の会計管理を行っています。
	書類	書類作成システム(パピルス)を活用し、書類依頼・発行・交付業務を行い、各種公費申請の手続きを行っています。特定疾患更新時期には約700件の処理を行っています。
入院 医事 係	未収	請求・入金・未払金額の管理をし、未払者の対応を行います。また、入院時預り金の管理、入院予定患者さんへの高額療養費や限度額認定証等の情報提供を行っています。
		退院前日の患者さんへ概算入院診療費のお知らせを行います。また、入院中の患者さんに対し限度額適用認定証の説明や、診療費に関してのご相談も随時行っています。DPCに係るデータの提出を厚生労働省へ行っています。

診療情報管理課業務内容

院内外の各種調査やアンケートに対するデータ提出や原価計算を用いたクリティカルパスの検証を行っています。

課内におけるワーキンググループ

サービス委員会	職員間の感謝の気持ちを伝える「和みレター」を始めとし、朝礼時の接遇練習や、クリスマスコンサートなどの季節ごとの行事にも力を入れ、患者サービス向上や職員間のコミュニケーションを円滑にするために活動を行っています。
査定委員会	レセプトのチェック漏れを防ぐ事を目的とし、査定結果を分析し、分析結果や注意事項を課内で共有する活動を行っています。
SDS委員会	正確な請求を行うために、月ごとに請求誤りの報告をし、個別指導や年2回の勉強会を行っています。
メニュー委員会	主な検査料金などを記載した「診療費料金表」を各診療科に常備し、その作成・更新を行っています。診療科などの要望に応じて、随時、診療費料金表を追加・修正しています。

重点目標・評価と来年度への展開

■ 広報誌発行

職員に医療制度や診療報酬点数に関する情報提供を行い、医療事務課の活動内容を広報・周知するために2013年度は広報誌を4回発行しました。なお、2014度からは患者さん向けにも発行する予定です。

■ 保険診療説明会(全職員対象)

当院は「臨床研修指定病院」です。臨床研修病院入院診療加算を算定するにあたり、全職員を対象に年2回以上「保険診療に関する講習」を開催することが義務付けられています。2013度は、8月12日・2月18日に開催しました。

■ 病棟訪室・退院支援カンファレンスへの参加

患者さん・ご家族の不安解消に少しでも繋がればとの思いから新たに『ご入院された患者さんの元へ医療事務課職員が訪室し、高額療養費の案内や療養中の質問・相談などを伺うこと』に取り組んでいます。また、看護部ならびに多職種協働で開催される退院支援カンファレンスにも参加しています。

2014年度は2013年度と同様に診療部門との連携を深め、診療報酬におけるさまざまな情報提供はもちろん、事務職の専門知識を活かし、診療部支援ができる存在であり続けるように努めます。また、患者さんに対しても、役立つ情報提供を行っていきたいと思います。



広報誌「笑」



保険診療説明会



◎医局秘書課

電話交換、医局受付、病歴管理(物的)、医療情報プラザ(図書室)運営、ドクター秘書業務、糖尿病センター秘書業務、安全管理部・感染対策室補佐業務を行っております。医療情報プラザは患者図書室として、患者さんがご自分の病気の理解を深め、治療に参加していただくことをコンセプトに、患者さん向けの医学書を設置しております。

また、当部署は医師の様々なサポートをしております。特にドクター秘書は、医師の医療行為に付随する事務的作業のほとんどを担っており、医師の負担軽減に貢献しています。

主な施設基準

医師事務作業補助体制加算15対1

職員配置

	常勤	パート職員
事務職	5人	2人
事務職(医療情報プラザ)		1人
ドクター秘書	2人	31人
計	7人	34人
総数	41人	

取得認定資格

ドクターズクラーク……………13名
 医療事務管理士……………6名
 医療事務技能審査(2級)……………4名
 保険請求事務技能検定(1級)……………1名
 ホスピタルコンシェルジュ(3級)……………1名
 秘書技能検定(準1級)……………2名
 秘書技能検定(2級)……………19名
 秘書技能検定(3級)……………3名
 サービス接客検定(3級)……………1名

活動状況

電話交換業務

2013年度着信本数(平日のみ)	52,586件
お待たせコール作動本数(5回コールにて作動)	166件

ドクター秘書業務

退院サマリー	4,116件/年
書類・診断書	8,796件/年
症状詳記	332件/年
NCD(手術登録)	849件/年



診療補助(電子カルテの代行入力)の様子

医療情報プラザ

利用状況

利用者数	5,536人
貸出数(医学書)	483冊
貸出数(一般図書)	1,674冊
プラザ用医学書購入数	20冊

開館：平日 9:00~17:00

第3土曜日 9:00~12:00

医療情報プラザでは、来館が困難な入院患者さんやご家族にもご利用いただけるよう、本のデリバリーサービスを行なっています。また、来館者にくつろげる環境を提供するために、季節を感じられるような飾り付けなども工夫しています。



今年度の重点目標・評価と来年度への展開

2013年度はドクター秘書の医療知識向上を目的とした、他部門によるレクチャーを実施することができました。薬剤部、臨床放射線技術部、臨床検査技術部の3部門の協力を得て、基礎知識の習得に努めました。2014年度も引き続き、実施したいと考えています。

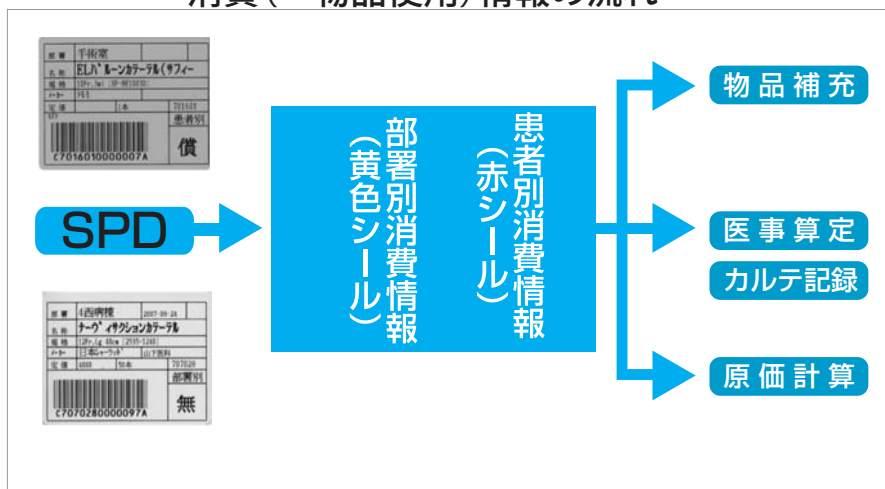
◎資材課

法人内(佐世保地区)で使用する全ての医療材料・消耗品・印刷物・医療機器などの購入(いわゆるバイヤー業務)を担当している部署です。法人唯一の購買担当・物品管理部署として、正確かつ迅速な物品供給業務を行っています。

また、適正なコスト管理・在庫管理にも力を入れており、業務の合理化およびコスト削減、コストパフォーマンスの向上を推進しています。

当法人ではSPDシステムを導入しており、物品や業務の標準化・物流の効率化を図り、購買情報・在庫情報・消費情報などの一元管理が可能となっています。SPDシステムは2003年より導入し、当時は外部委託運用なしの院内SPDで既存ベンダーパッケージを採用していました。その後、電子カルテ一体型のSPDシステムの開発を模索し、2007年に自社開発の新電子カルテシステム「HOMES」と連動した独自の新SPDシステムが稼働しました。新SPDシステムでは、材料使用(消費)を登録する事で、補充だけではなく電子カルテへの記録、医事算定、原価計算との連動が可能となっています。

消費(=物品使用)情報の流れ



職員配置

資材管理本部長	副 主 任	課 員	合 計
1人	1人	4人	6人

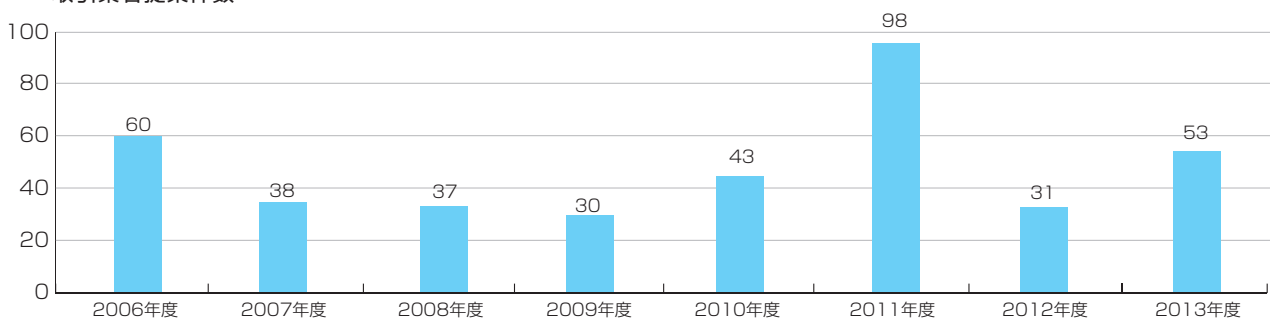
活動状況

■トータルコストダウン活動について

2002年度よりトータルコストダウン活動を継続的に推進しています。しかし、資材課職員による交渉のみではコストダウン方法に限界があるため、取引業者からの新商品・同等品提案や、職員からの提案を広く受け付けています。職員や協力会社を巻き込んで「良いものをより安く」調達する事により、より高いコストパフォーマンスを追求しています。

これまでの取引業者からの提案件数およびコストダウン実績は以下の通りです。

取引業者提案件数



■コストダウン実績

単位：円

	資 材	施 設	合 計	目 標	達成率
2002年度	20,192,504	4,448,669	24,641,173	20,000,000	123%
2003年度	11,610,577	1,150,060	12,760,637	12,000,000	106%
2004年度	7,455,839	4,984,400	12,440,239	8,000,000	156%
2005年度	22,234,222	13,579,270	35,813,492	12,000,000	298%
2006年度	29,001,476	1,429,850	30,431,326	10,000,000	304%
2007年度	11,494,506	1,313,200	12,807,706	10,000,000	128%
2008年度	5,253,240	2,405,000	7,658,240	7,000,000	109%
2009年度	7,379,245	0	7,379,245	6,000,000	123%
2010年度	6,133,323	0	6,133,323	6,000,000	102%
2011年度	7,435,757	0	7,435,757	6,000,000	124%
2012年度	5,687,719	0	5,687,719	5,000,000	114%
2013年度	5,075,575	0	5,075,575	5,000,000	102%
合計	138,953,983	29,310,449	168,264,432	107,000,000	157%

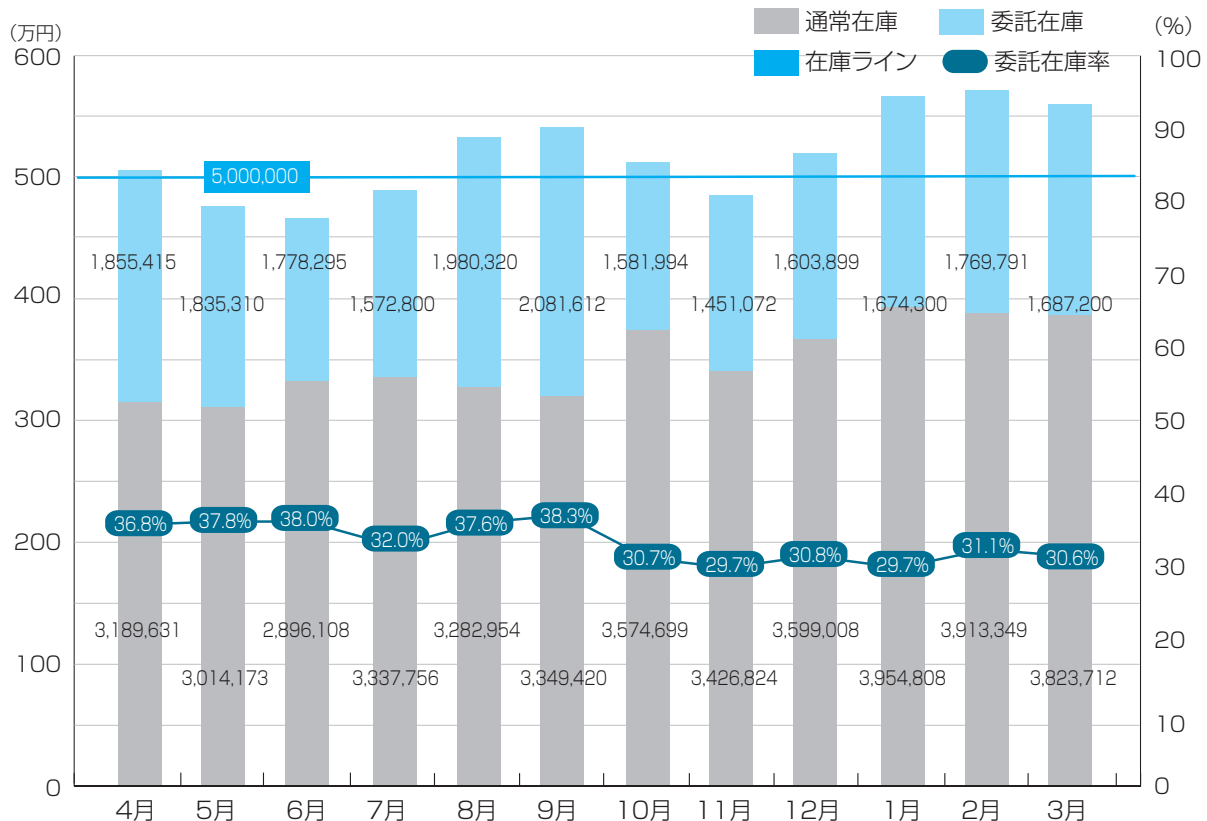
重点目標・評価と来年度への展開

■内視鏡室の在庫管理

2012年度に引き続き2013年度も内視鏡室の在庫管理を課題としました。2013年度は委託在庫率年間平均35%以上、月間総在庫量500万円以下の維持(年度累計在庫6000万円以下)の2点を重点目標としました。

その結果、在庫委託率は33.5%、月間平均在庫は518万円(累計:6,220万円)となり、目標は未達成となりました。以下のグラフのように在庫金額が増加傾向にあるため、2014年度は総在庫金額に的を絞って再度重点課題(部門BSC)として取り組みます。

■2013年度 内視鏡室月別在庫推移表



◎施設課

患者さんや職員の方々及安全に過ごしていただけるよう美観や快適環境の環境改善から災害予防などの安全対策まで院内外設備（電気設備、空調設備、衛生設備、防災設備）などの維持管理およびメンテナンス業務を行い、また公用車や送迎などを管理する車両管理を業務としています。

職員配置

	本部長	課長	係長	主任	課員
本部	1人	1人	—	—	—
中央管理室	—	—	1人	1人	4人
車両管理室	—	—	—	—	3人

活動状況

■設備管理

院内外すべての設備機器の管理およびメンテナンス業務を行い、常に監視し不具合等の早期発見に努めています。また地球環境を意識した省エネ機器の新規導入や適正な設備運用にも心がけています。

【省エネ取り組み例】

- ①LED照明への更新
- ②インバーター機器の導入
- ③空調のデマンド制御 他



ナースステーションLED照明へ変更

■防火・防災・防犯対策

防火対策：防火管理委員会の設置、防火設備、通報設備、避難設備、消火設備、防煙シャッター設備、防火（避難）訓練の実施

防災対策：地震感知装置、転落防止措置、地震訓練の実施、大規模災害受入訓練の実施 BCP（事業継続計画）

防犯対策：ガードマン（夜間）の配備、防犯カメラ、電子施錠

※詳しい内容は、P169防火管理委員会をご参照ください。

■環境対策

1.インフルエンザ対策

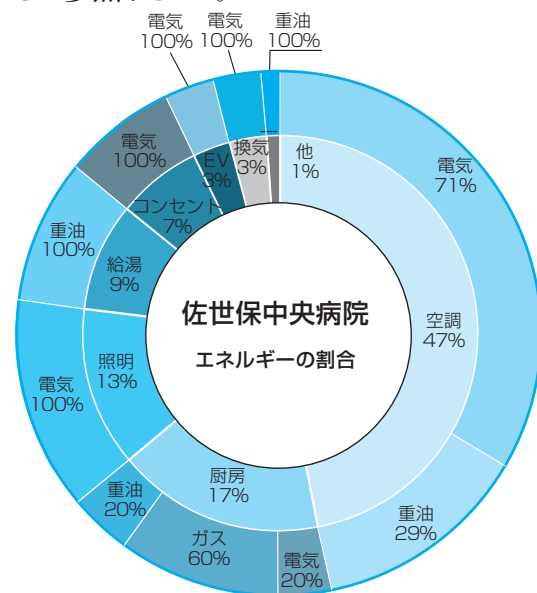
各病棟には、気化式埋込型加湿装置を導入設置しインフルエンザ予防対策に努めています。

2.省エネ対策

佐世保中央病院は2008年の省エネ改正により第2種エネルギー管理指定工場とされ省エネルギーに努めることになりました。

これまでの省エネ対策としては、省エネ委員会を設立し照明の間引、LED照明への切替え、デマンド制御装置の設置、職員への省エネ啓蒙、適正な空調管理、など患者さんの生活や職員の業務に支障がないよう心がけて取り組んでいます。

※詳しい内容は、P185省エネルギー推進委員会をご参照ください。



今年度の重点目標・評価と来年度への展開

■ミッション

市民および白十字会関連施設を利用する人々のために、施設管理業務を通して、施設の「アメニティの向上」「地球温暖化防止」「災害防止・保安対策」を推進します。

■ビジョン

技術的に、人間的に、信頼される施設管理技術者となります。

■研究・学習

年4回関連グループ施設課代表が集まり部門会議を開催し、課題に向けての発表を行なっています。また各施設との情報交換を行い、新しい取り組みや各施設の問題点を協議し、施設の円滑な運用が図られるよう取り組んでいます。

◎システム開発室(法人本部:医療情報本部)

法人各施設およびグループ施設のICT(情報通信技術/設備)に関する業務分析、システム設計、プログラム製造/改修、システム運用/管理を行っています。

職員配置

管 理 職	開発業務担当	運用業務担当	合 計
1人	9人	5人	12人

取得認定資格

資 格	資 格	人 数
ICTプロフィシエンシー検 定試験(旧パソコン検 定)	ICTプロフィシエンシー検 定協会(旧パソコン検 定協会)	1名
初級医療情報技師	JAMI(一般社団法 人 医療情報学会)	5名
応用情報処理技術者	IPA(独立行政法人 情報処理推進機構)	2名
医療情報システム監査人	MEDIS-DIC (一般財団法人 医療情報 システム開発センター)	1名
秘書検定2級	公益財団法人 実 務技能検定協会	1名

■HOMESサーバハードウェア更新
サーバ機器の選定、他社製システムとの接続の検証など

■職員向けパソコン研修会の開催

8回開催(延べ参加者数:27名)

■HOMES内部監査の実施

12月16日に実施

■個人情報保護研修の開催

11月19日に実施

■部門内勉強会の実施

2回開催(9月7日、11月16日)

今年度の重点目標・評価と来年度への展開

	2011年度 (実績値)	2012年度 (実績値)	2013年度 (実績値)
HOMES職員 満足度調査の 結果(5点満点)	3.8	3.7	3.6
法人内他施設訪 問回数(セキュリ ティ面での確認等)	5	9	17

HOMESサーバハードウェア更新(2013年7月19日)

・僅かなシステム停止時間(1時間)での更新作業完了

・冗長化の実現

・システム監視機能の導入

・データ暗号化機能の導入

・監査機能の導入

・遠隔バックアップの導入(2014年4月以降に予定)

HOMESの標準化対応…厚生労働省標準規格
(医政発0331第1号)への対応

・HS012 JAHIS臨床検査データ交換規約

・HS016 JAHIS放射線データ交換規約

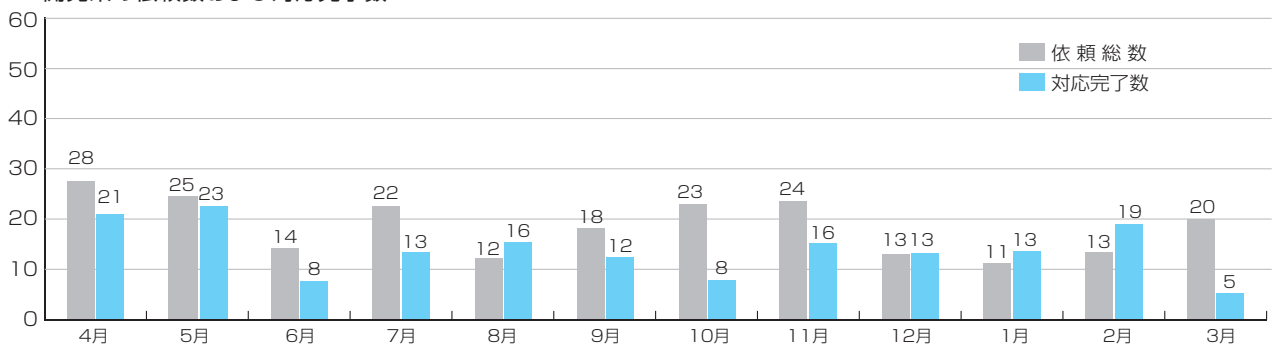
HOMESのハードウェア環境の進化(64ビットOS)への
適応

施設間患者情報共有システムの構築

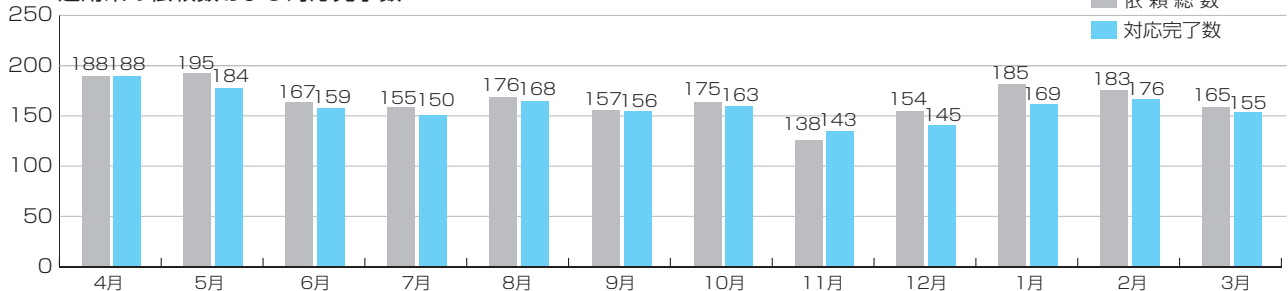
■学会・研修会への参加実績

学会・研修会等
第17回日本医療情報学会春季学術大会
第33回医療情報学連合大会
マイクロソフト出張セミナー「HOMES開 発環境の64Bit化のマイグレーション」

開発系の依頼数および対応完了数



運用系の依頼数および対応完了数



◎総務課・財務課

総務課では、総務係、給与係、人事係に分かれ、給与計算・各種労務管理・各種手続き・人事考課・福利厚生・契約業務など多岐に亘る業務を担当しています。

財務課では、現金・預貯金管理業務、収支月表作成、収益の計上、各種経営資料の作成、企業年金基金などの業務を担当しています。

職員のみなさんが、安心して各々の業務に専念していただけるように、各種情報の発信や福利厚生の充実に努めています。

職員配置

	常勤	非常勤
総務課	9人	1人
財務課	5人	1人
総数	14人	2人

活動状況

職員のみなさんに知っておいていただきたい各種規定・手続き・福利厚生制度についての説明会を「出前講座」として、2013年度は次の通り、合計9回開催しました。

新入職員（4月）	1回
中途採用者	5回
部署別	3回

■総務課・財務課ニュースの発行

総務課・財務課ニュースを年3回（発行し、佐世保中央病院だけでなく、法人内各施設のニュースや、出張費コストダウンなど、職員のみなさんにさまざまな情報を提供しています。



総務課NEWS

■福利厚生関連

福利厚生の一環である「白十字むつみ会」では、毎年レクリエーション大会を開催しています。本年度は、2013年11月9日の佐世保市体育文化館にて、「ドッチビー大会」が開催されました。



その他にも、ソフトバンクホークス観戦チケット、ソフトバレー・テニス・バドミントンなどのスポーツを楽しむ「お気楽くらぶ」など、職員のみなさんに楽しんで参加していただける行事を開催しています。

重点目標・評価と来年度への展開

2013年度は、今までなかなか「出前講座」を開催することのできなかった福岡地区において、2回開催することができました。合計50名の方に出席していただきましたが、今後も福岡地区にての開催を継続し、職員満足度の向上につなげていきたいと思えます。さらに、2014年度には新たな福利厚生「えらべる倶楽部」がスタートします。職員のみなさんに、より多く利用していただくよう広報活動を充実させて行く予定です。

また、経理システム、給与システム、総務システムが新システムに入れ替わります。新システム導入で更なる業務効率の向上を図る予定です。

【地域医療連携センター】

当院は、地域の医療機関との連携を深め、より一層地域医療の充実を図るため、地域の医療機関に入院病床やCT・MRIなどの医療機器を開放し共同で利用することができる「開放型病院」として、また地域の医療機関からご紹介いただいた患者さんに、より詳しい検査や専門的な治療をおこなう「地域医療支援病院」として運営を行っています。

地域の医療機関からの紹介患者様の診療予約サービスや、開放型病床における共同指導、地域の医療機関に広く情報を提供するメディカルネット99とよばれるシステムの運用などを通して、患者さんの診療情報を地域医療機関と共有し、より円滑な紹介受入れ、当院から地域医療機関へ患者さんのご紹介を行うことで、地域住民の皆様が一貫した診療体制の中で安心して治療していただけるよう努力しております。また、退院後も安心して生活していただけるよう、医療ソーシャルワーカーが、介護保険等の各種制度のご案内や各種の医療福祉施設のご紹介、また経済的なご相談をお受けするなど、患者さんを支援しています。

また、地域連携パスの実施状況、ベッド稼働の状況などの各種データ統計も地域医療連携センターの重要な役割であり、合わせて紹介患者いかに問わず当日の入院依頼におけるベットセンターの機能も有しています。

職員配置

医師	看護師	医療ソーシャルワーカー	事務職員	合計
1人(兼任)	1人	7人	6人	12人

活動状況

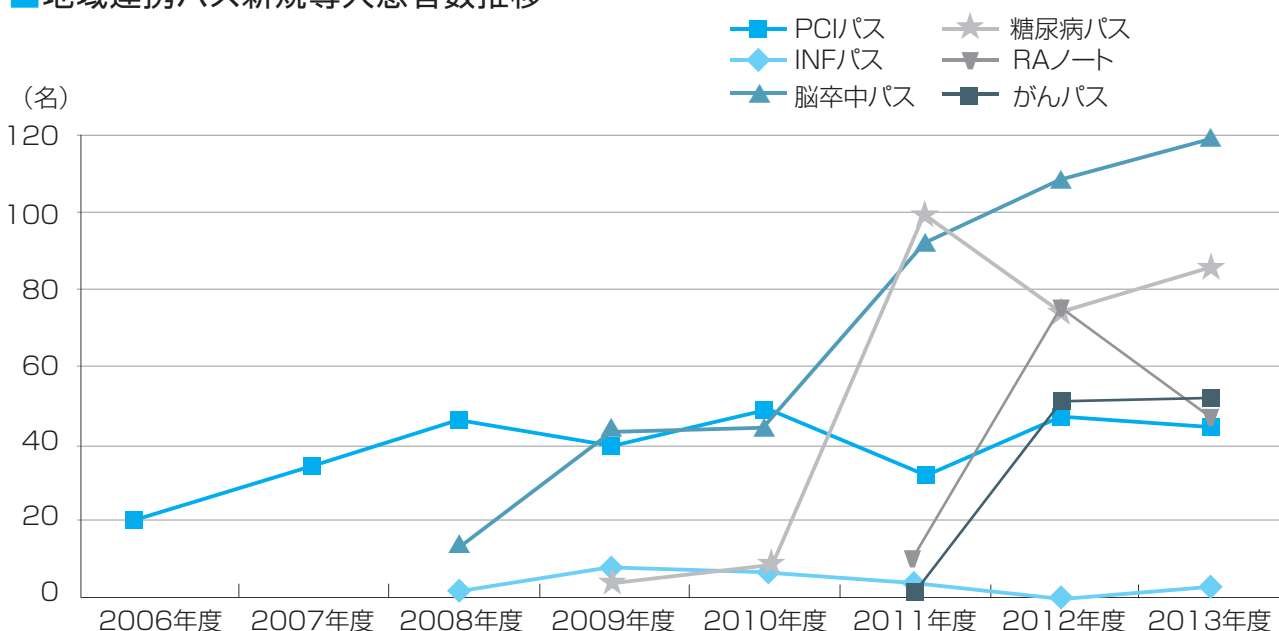
紹介率など各種の統計についてはP36病院概要をご覧ください。

重点目標・評価と来年度への展開

2013年度は在宅支援診療所との関係をさらに強化すべく、入院希望患者の事前サマリをいただくなど、在宅連携を推し進めました。

また、今後は病棟の退院支援看護師と協働し、医療ソーシャルワーカーを中心に、より早く患者さんの問題解決をお手伝いすることにより、早期の退院や、在宅医療へのスムーズな移行を促していきます。

■地域連携パス新規導入患者数推移



	運用開始時期	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	計
PCIパス	2006年5月	20	26	43	40	44	33	45	43	294
IFNパス	2008年8月			1	8	6	3	0	1	19
脳卒中パス	2009年2月			17	42	42	92	108	114	415
糖尿病パス	2009年8月				5	8	96	75	81	265
RAノート	2011年7月						8	77	42	127
がんパス	2012年3月						1	49	49	99
合計		20	26	61	95	100	233	354	330	1219

PCIパス：2013年度も例年通りの推移。

IFNパス：患者数のピークは過ぎ、年間1件のみ。

脳卒中パス：脳神経外科患者数の増加により、パスも増加傾向。

糖尿病パス：2013年度も順調に推移。

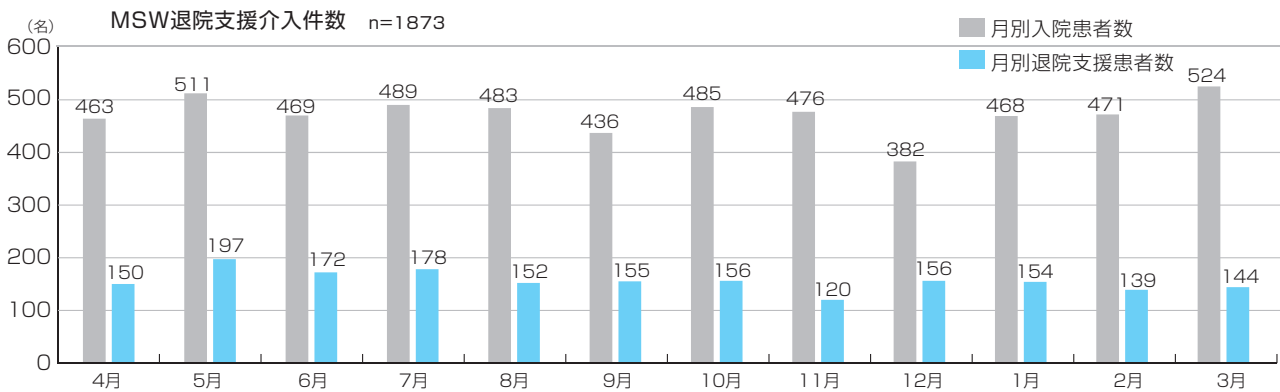
RAパス：開始時に比べると減少。RAノートからララサークルへ移行。

がんパス：2012年度並みに推移。今後は泌尿器領域への取り組みが課題。

MSW活動報告

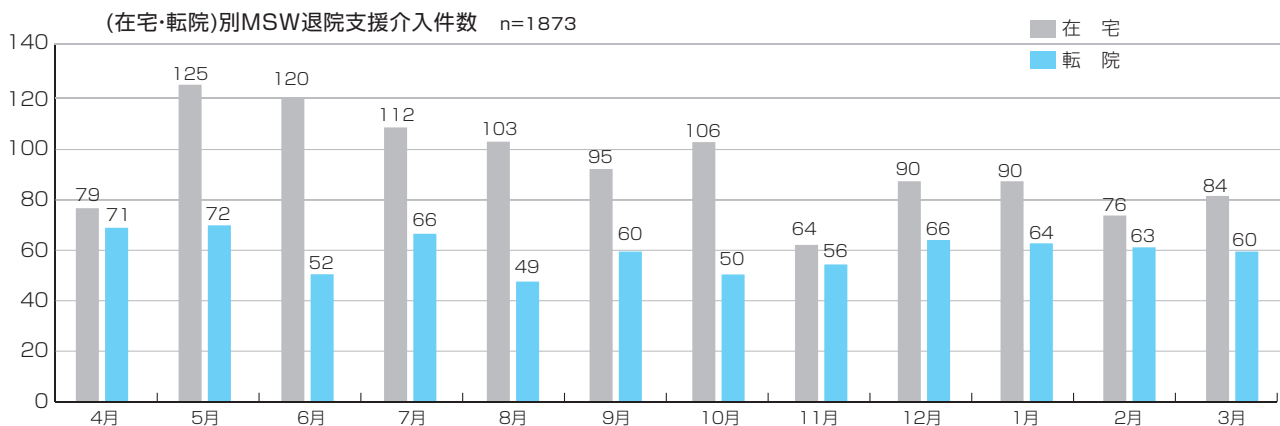
MSW退院支援介入件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
月別退院患者数	463	511	469	489	483	436	485	476	382	468	471	524	5,657
月別退院支援患者数	150	197	172	178	152	155	156	120	156	154	139	144	1,873
総数	613	708	641	667	635	591	641	596	538	622	610	668	7,530



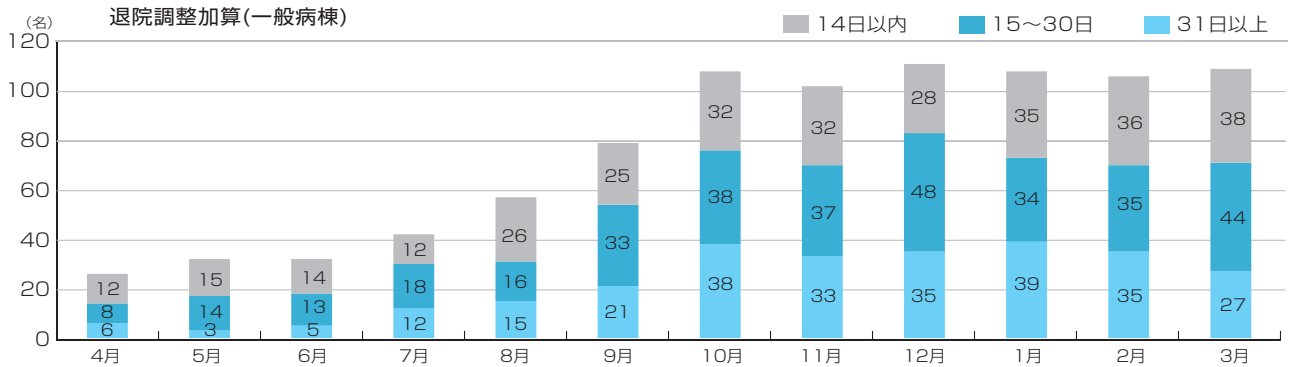
2013年度:(在宅・転院)別MSW退院支援介入件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
在宅	79	125	120	112	103	95	106	64	90	90	76	84	1,144
転院	71	72	52	66	49	60	50	56	66	64	63	60	729
総数	150	197	172	178	152	155	156	120	156	154	139	144	1,873



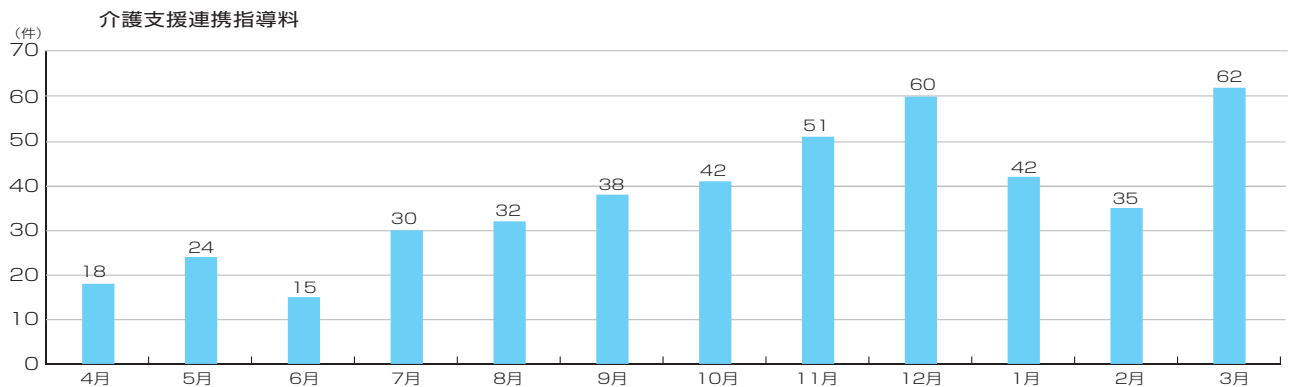
■退院調整加算(一般病棟)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14日以内	6	3	5	12	15	21	38	33	35	39	35	27	269
15日～30日	8	14	13	18	16	33	38	37	48	34	35	44	338
31日以上	12	15	14	12	26	25	32	32	28	35	36	38	305
合計	26	32	32	42	57	79	108	102	111	108	106	109	912



■介護支援連携指導料

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	18	24	15	30	32	38	41	51	60	42	35	62	448



患者相談実績

患者数	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
合計	1,562	2,095	1,768	1,598	1,873

(相談患者実数)

患者相談内容	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
① 経済的相談	128	119	150	198	121
② 生活の場の設定相談	55	33	25	56	301
③ 転院相談	577	697	702	708	709
④ 在宅療養の相談	463	533	561	584	1,144
⑤ 受診・受療相談	130	92	96	103	186
⑥ 疾病理解・傷害受容相談	99	55	66	71	65
⑦ 人権に関する相談	170	90	99	89	31
⑧ 就労・教育・社会復帰相談	19	28	38	40	25
⑨ 心理相談	553	561	484	587	632
⑩ 関係機関(者)との調整相談	1,690	2,122	2,231	2,251	2,893
⑪ 医療福祉制度相談	790	1,142	1,280	1,180	1,420
⑫ がん・難病疾患相談	972	1,142	1,268	1,346	1,422
合計	5,646	6,614	7,000	7,213	8,949

(相談延べ件数)

【健康管理部】(健康増進センター)

佐世保中央病院に併設された健診施設で、2002年に、これまでの白十字会医療社会事業部から新たにゆとりのある空間での快適な受診環境へと整備されました。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診等を除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、様々な健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師などの各専門スタッフが担当し、健診の質の確保を図っています。

また2008年12月、運営の合理性などの第三者による客観的な評価として、人間ドック学会の健診施設機能評価を受審し、認定を取得することができました。これからも業務内容と環境の両面での見直しを行い、利用者目線で質とサービスの向上に取り組んでいきます。

認定施設

人間ドック学会健診施設機能評価 (Ver.2) 認定施設
マンモグラフィ検診画像認定施設
健康保険組合連合会指定健診施設
全国健康保険協会管掌健診指定施設

職員配置

	常 勤	非常勤
医 師	3人	5人
保 健 師	5人	—
看 護 師	2人	2人
事 務 員	4人	4人
そ の 他 の 職 員	1人	5人
合 計	15人	16人

*健診事業において、本院の医師及び臨床検査技師、放射線技師の支援を受けている。

活動状況

健診コース別受診者数

健 診 種 類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
協 会 管 掌	一 般 健 診		155	176	186	142	177	178	184	180	223	202	38	1,841
	付 加 健 診		7	6	8	15	6	11	17	8	8	17	2	105
	肝 炎 婦 人 科 検 診		17	6	22	6	20	45	42	35	25	30		248
人 間 ド ッ ク	1 日 ド ッ ク	68	82	95	174	168	174	152	173	129	126	162	128	1,631
	2 日 ド ッ ク	12	11	20	34	34	34	34	36	36	36	33	27	347
	レ ディースドック				29	43	37	29	15	23	26	24		226
	肺 ド ッ ク				44	44	36	11	6	14	12	8		175
健 康 診 断	定 期 健 診	78	168	178	98	72	76	81	110	47	95	50	103	1,156
	成 人 病 健 診	31	38	52	48	28	54	70	36	31	10	8	8	414
	そ の 他	6	7	10	10	13	14	10	12	10	15	15	8	130
	職 員	348	438	529	381	7	16	92	114	132	109	14	13	2,193
佐 世 保 市 関 連	国 保 脳ドック						12	4	8	8	7	8	47	
	胃 癌 検 診	67	70	69	77	68	76	90	98	89	111	118	105	1,038
	肺 癌 検 診	38	20	58	85	84	81	108	108	82	114	123	144	1,045
	子 宮 癌 検 診	69	48	73	86	87	82	111	118	96	114	110	182	1,176
	乳 癌 検 診	78	51	91	91	94	103	131	139	103	124	122	209	1,336
	大 腸 癌 検 診	43	28	62	88	84	90	121	117	100	129	131	179	1,172
	前 立 線 癌 検 診	21	8	23	30	22	29	39	40	27	32	37	40	348
特 定 健 診			9	62	87	85	103	85	105	121	145	186	988	
実 績 件 数	1,087	1,148	1,457	1,553	1,098	1,190	1,428	1,454	1,255	1,438	1,356	1,380	15,844	

健診検査別実施数

診療科実績 (P96健康増進センター) をご参照ください。